「つどい」の８つのシキタリ

その１

毎回、多彩、豪華な「えにし」の方がご登壇くださいますが、どんなに高名な方でも、講演料ナシ。「素晴らしい参加者の前で話すことができる、それは、“権利”なのだ」という理屈からです。

その２

登壇は「権利」なので、よほどのことがないかぎり、「一生に一度」だけ。せめてものお礼にご著書をお買い求めになり、広めてくださいませ。もちろん、ご発言の内容も。

その３

「えにし」の集いのモットーは、前例を破ること。〇〇先生、〇〇局長という上下っぽい呼びかけは御法度です。濃縮シンポ「地域包括ニセモノ・ホンモノ」の準備のための同送メールで、カラちゃん、たんちゃん、はなちゃん、ただちゃん、さるちゃん、もりちゃんと呼び合って盛り上がったみなさんは、いまは、無二の親友に。

その４

えにしの集いには、毎回 news が潜んでいます。認知症ご本人、ＬＧＢＴご本人が登壇してくださった、それぞれ２年後、マスメディアでブームになりました。今回も、news がプログラムの中に隠れています。多数参加しておられるメディアのみなさま、見つけてくださいね。

その５

「乱世、人はボラになる」という法則があります。2001 年から 10 年間も裏方プロのワザでたすけてくださった全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）の拠点を大震災が襲ったとき、国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野の院生・卒業生が立ちあがりました。詳しくは、前のページを。

その６

「えにし」を結ぶには、情報保障が欠かせません。プロによるパソコン文字通訳、手話、磁気ループ、指点字を用意することが慣例になりました。だれもが参加していただけるように、介助の方からは参加費はいただかないのも慣例です。

その７

「えにし」の会のスポンサーは、ご参加くださったみなさまです。マスメディアが、まず、取り上げないメディア批判、広告主に遠慮して躊躇する利益相反問題に切り込めたのは、スポンサーなしで一切をまかなっているからです。赤字が出たら「小間使い」が老後？の貯金を取り崩す覚悟。けれど、毎回、奇跡的にセーフ。昨年は、収入が会費とご寄付で 246 万 2080 円、支出がプレスセンター34 万 9253 円、イイノホール 83 万 2011 円、情報保障 29 万円、登壇してくださった方の旅費・宿泊費 31 万円、機材借用代 20 万円、印刷・紙代 33 万 5880 円、手提げ袋3万 9744 円、懇親会登壇者分 6 万 0000 円、宅急便 2 万 6028 円 etc. etc. で差し引き2万円弱の黒字に（*^ー^*）。

その８

席は、籤引き。「新たな」えにしを結ぶためです。話の糸口になる「名札」と「えにし結び名簿」を用意しました。恋が偶然から生まれるように、名簿と胸の名札、そして、籤で偶然近くに坐った方や「えにし結びたい・む」で出会った方々と、日本を変える「えにし」が結ばれますように。